

100 世界遺産の旅 (91)

アクロポリスの丘

2003年以來、久しぶりにギリシアのアテネを訪れた。アテネの象徴と云えば、アクロポリスにあるパルテノン神殿であろう。エントランスより、神殿へ登坂するわけのだが、チケット売り場から、人また人の行列で、1時間にして、漸くパルテノン神殿まで辿り着いた。神殿は、広くて平坦な台地にあるので、人の多さを感じなかったが、それでも人を避けて写真を撮るのには難儀した。



パルテノン神殿、アテネ、ギリシア、2019年5月

アクロポリスは、「高い丘上の都市」という意味で神殿と共に都市国家の要塞でもあった。紀元前5世紀ごろに、現在のパルテノン神殿が建造された。アクロポリスの近くに大理石の丘があり、元々はそこから切り出して建材にしたのであろう。当時、既にアテネでは古代民主主義が芽生えており、日本で言えば、我が祖先が、稲作を始めた弥生時代で、文明格差に愕然とさせられる。

1687年に、ベネチア軍の砲撃を受けて大破して以来、修復作業が続いている。2003年に訪れた時も修復中で、現在も完了していないところを見ると、ギリシアの財政破綻が大きく影響し、何時、修復に終止符が打たれるか予想も付かない。



国立考古博物館、アテネ、2019年5月

アクロポリスの北側にアゴラ（公共空間）が隣接している。2003年では、両方の門より直接行き来できたが、今回は両門とも閉ざされ、遠くに迂回せねばならなかった。アゴラに観光客は少なく、アクロポリスとは違っていたことから、アクロポリスとアゴラの管理者間で何らかのトラブルがあったと推察する。



リカビトスの丘より遠望、アテネ、2019年5月

アクロポリス、アテネ市街、エーゲ海の全貌を見るには、標高273mのリカビトスの丘に登らねばならない。一般のツアー旅行では、決して立ち寄ることはないの、自由旅行のアテネ訪問時に、リカビトスの丘に登って、素晴らしい眺望を堪能してもらいたい。

朝9:00、アテネの中心地シンタグマにあるホテルを出発して、市街地を抜けて、徒歩で山道に登ること約1時間で、頂上に到達した。山道は、全て整備されていて歩きやすく、多くの人々が、朝の散歩に繰り出していた。頂上にも多くの観光客がいて、アクロポリス、アテネ市街、エーゲ海の遠望を楽しんでいた。



パナシナイコ・スタジアム、ギリシア、2019年5月

リカビトスの丘の後、国立考古学博物館で彫像と陶器を観覧したが、ギリシア時代には、全く絵画が無いのが印象的だった。国立考古博物館後、ローマ時代のハドリアウス門、ゼウス神殿を経て、パナシナイコ・スタジアムに向った。1896年、第1回近代オリンピックが、開催されたスタジアムで、2020年東京オリンピックのメダルの表側に「パナシナイコ・スタジアムに立つ勝利の女神ニケ像」として刻まれている。